

2002年度 日本エイズ学会第2回理事会 議事録

日 時：平成14年11月27日（水）午後4時～6時

場 所：名古屋国際会議場4号館437会議室

出席者：木村 哲，味澤 篤，生田和良，市川誠一，木原正博，五島真理為，白阪琢磨，高田 昇，橋本修二，福武勝幸，松下修三，三間屋純一，安岡 彰，吉崎和幸，上田重晴（監事），以上15名

委任状提出者：池上千寿子，岩本愛吉，内山 卓，倉田毅，小柳義夫，以上5名

オブザーバー出席者：岡本 尚（2002年度学術集會会長），福田 博（日本学会事務センター），山本暖子（理事長秘書），以上3名

議 題**（報告事項）**

- 1) 会員現況・逝去委員（報告者：木村理事長）
会員現況（昨年同期より49名増，団体を含む合計会員数：1,530名）・逝去会員（3名）の説明がなされた。
- 2) 2002年度会計中間報告（報告者：福武理事）
2002年11月5日現在の会計中間報告について，主な項目を中心に説明がなされた。収入，支出ともにほぼ予算に沿って進められている。
- 3) 日本エイズ学会誌発行状況（報告者：山本理事の代理，木村理事長）
同誌の発行状況が報告された。発行，編集ともに順調に進んでいる。
- 4) 第16回日本エイズ学会学術集會について（報告者：岡本2002年度学術集會会長）
特別講演，シンポジウム，演題などの状況とともに，学会長オーバービューを行うことが報告された。運営などへの協力が要請された。
- 5) 第17回日本エイズ学会学術集會準備状況（報告者：木原2003年度学術集會会長）
第17回日本エイズ学会学術集會は，第7回アジア・太平洋地域エイズ国際会議との協調から，2003年11月27日（木）に，神戸国際会議場を中心に開催することなどが報告された。
- 6) その他
 1. ホームページについて（報告者：高田理事）

ホームページの作成状況が報告された。雑誌は1～3巻の目次，4巻1～3号の抄録・本文が掲載されている。第16回学術集會の抄録集は掲載予定である。経費の詳細が報告された。

2. 第7回アジア・太平洋地域エイズ国際会議について（報告者：木原理事）

同国際会議の準備状況が報告された。第17回日本エイズ学会学術集會との協調から，開催期間は同じ日の2003年11月27日（木）から開始，12月1日（月）までとし，開催場所も同じ神戸国際会議場を中心とする。参加費は両方の参加者への便宜を図る予定である。プログラムの骨子ができつつあり，詳細の詰めにかかっている。

3. 理事選挙について（報告者：木村理事長）

理事選挙の日程が報告された。2002年12月に投票を行い，2003年1月に開票し，4月に新理事会が発足する予定である。

4. その他

木村理事長から，厚生労働省健康局エイズ疾病対策課より厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）への応募に関する連絡があったこと，日本学術会議では組織の見直しに関する中間報告が出されたことが報告された。

（審議事項）

- 1) 2003年度予算案について
2003年度予算案について，福武理事から説明がなされ，同案が承認された。2002年度予算と比べて，会費収入とホームページ運営費が増加し，また，第17回日本エイズ学会学術集會と第7回アジア・太平洋地域エイズ国際会議が協調開催する関係から学術集會補助金が増額となった。（追記：学術集會補助金を増額し300万円とすることが，理事会の承認という条件付きで，2002年11月28日（木）の評議員会と総会で承認され，後日，持ち回り理事会で承認された。）
- 2) 第18回日本エイズ学会学術集會会長候補の選出
第18回日本エイズ学会学術集會会長候補の選出について審議された。これまでの臨床・基礎・社会の分野での開催状況と開催場所が考慮され，静岡県立こども病院の三間屋純一理事が全員一致で推薦され，三間屋理事の内諾も得た。（追記：本件は2002年11月28日（木）の総会において，承認された。）
- 3) 第3回ECC山口メモリアルエイズ研究奨励賞について
第3回ECC山口メモリアルエイズ研究奨励賞について，同選考委員会委員長の生田理事から選考結果が説明さ

れ、木村理事長から理事の持ち回り審議結果が報告された。受賞者として、国立国際医療センターの湯永博之氏（受賞対象テーマ：薬剤耐性 HIV の in vivo および in vitro における研究）および University of California San Francisco の米澤昭仁氏（同：ケモカインレセプターを介する HIV-1 の細胞侵入機構の解析，I 型インターフェロン産生細胞の HIV-1 感染性と免疫応答）の 2 人が承認された。（追記：本件授賞式は 2002 年 11 月 28 日（木）の総会において行われた。）

4) HIV 感染症の診断法について

HIV 感染症の診断法に関するガイドラインについて、これまで、福武理事を中心に理事会で検討が重ねられてきた。HIV-2 検査の考慮、提案に期限を付けることなどが確認された。同ガイドライン案について、本学会ホームページに掲載し、総会でその旨を通知して学会員から意見を聴取した上で、それを考慮して本年度内に理事会で決定することとなった。本学会の推奨法として、日本エイズ学会誌

に掲載する見込みである。

5) 総会と評議員会について

総会と評議員会における報告担当理事が確認された。

6) その他

ECC 山口メモリアルエイズ研究奨励賞について、生田選考委員会委員長から委員長退任の申し出があり、受理された。新委員長には松下理事が就任した。選考委員会の新委員は新委員長が選任することが確認された。

ピラセプト 10 錠/日（2,500mg 分 2 投与）の保険適用について、本学会から要望書を厚生労働大臣へ提出することが提案された。意見交換がなされ、理事会で検討することとなった。

倫理問題に関する委員会などの設置について、意見交換がなされた。

以上